

第8回一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会への意見

筑波大学人間系教授 山田 実

介護予防に関する評価指標（案）について、以下のとおり、意見を提出します。

- 全体的な印象として、成果を評価する指標は特に重要かと思えます。都道府県に対して、データ活用のための研修会も具体的指標の一つとして入っているのも、そのためかと思われます。しかし、改めて指標を確認しますと、データを分析するために必要な成果指標の数が少なく、成果を示すことが難しい印象を受けました。
国において、本検討会の取りまとめを踏まえ、評価指標を設定する際は、例えば、通いの場の数の指標も加える（例、通いの場数／高齢者人口）など、もう少し具体的な指標を細分化し、指標数を増やすことも重要かと思いました。
- 市町村に対する指標として、通いの場の横のつながりを強化するような活動（指標）も評価すべきかと思えます。さまざまな自治体では、通いの場の交流会のようなイベントを開催して、それぞれの悩みや問題点を共有しながら、良い形で活動を継続できる支援を行っておられます。このような活動も評価指標の一つとして有用かと思いません。
- 有償ボランティアが具体的指標として挙げられていますが、無償のボランティアも重要な指標かとおもいますので、無償・有償ボランティアとした方が適切かと思いました。
- 都道府県に対する指標の箇所には、民間企業や大学の連携体制の構築とありますが、市町村に対する指標の地域の多様な主体との連携に、大学も含めるべきかと思いました。